

第二次アンケート集計結果

備えの状況 前回より12ポイント上昇

今春、市関係職員及び退職者会皆様にご協力いただいた第二次東日本大震災体験アンケートですが、ようやく集計作業が終わり、結果を公表することとなりました。

今回の調査は、震災から3年、そして第一次アンケートから1年経過した後の備えの現状と認識を分析するため、現在の備えに対する状況調査と防災、減災に対する自由意見を基本として実施しました。

あれほどの大災害が「のど元過ぎれば熱さを忘れる」の諺どおり、時間の経過とともに人々の意識から薄れてきています。しかし、「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉もあるように万が一への備えは重要です。万一に備えていても、自然の力の前にはなす術がないかもしれません。でも自然の脅威には到底勝てないとしても、私たちは災害に対してでき得る限りの備えが必要だということを、今後も繰り返し訴えていきたいと考えています。そのためにも、この体験(出来事)だけは記録(記憶)として残しておくことが何よりも重要だと確信しています。

二度のアンケートで多くの方から指摘があったように、今回の大震災において、本来システム化されていたはずの災害体制がうまく機能しなかったのは、このような大災害を誰も経験していないこと、また誰しもが、このような事態が本当に起こるとは想定していなかったことも一因ではないでしょうか。

しかし、災害対応に想定外があってはならないはずです。机上の空論ではなく、現場での実体験を将来に生かしていくこと(残していくこと)が重要であり、そのためにも今回、調査を実施した結果として見えてきた喫緊の課題は、まず実効性のある災害配備計画の再整備と情報伝達システムの構築です。昨今、当然のように利用されている携帯電話のみに頼らない連絡システムの整備も必要ではないでしょうか。

また、避難所等における災害弱者への対応も大切です。高齢者や子どものみではなく、障がい者や外国人など幅広い対策が求められています。

さらに最前線で活動する私たち自治体職員の責務と身分保障等も忘れてはならない問題だと考えています。災害時に一番大事なことは、まず自分の命を守ることでないでしょうか。東北地方に「津波てんでんこ」という言葉があるそうですが、銚子にも「てんでんしのぎ」という言葉があります。その意味はどちらも「自分の身は自分で守れ」ということです。他人(住民)を助けるためには、まず自らの身を守ることが最優先であり、私たち自治体職員はこのことを念頭に置いて、災害時の対応に臨んでいかなければなりません。

私たちは2年前の夏、調査の構想段階で「あの震災時の出来事を風化させない」ことのみを活動の中心に据えました。しかし、調査を進めるなかで、退職者の回答から備えの大切さを教えられ、以降は備えに対する意識の醸成をもうひとつの柱としました。第二次アンケートでは、備えの状況が前回より12ポイント上がりました。もし今回の活動が少しでも備えに対する意識付けになったならば、その結果を私たちは素直に喜びたいと思います。

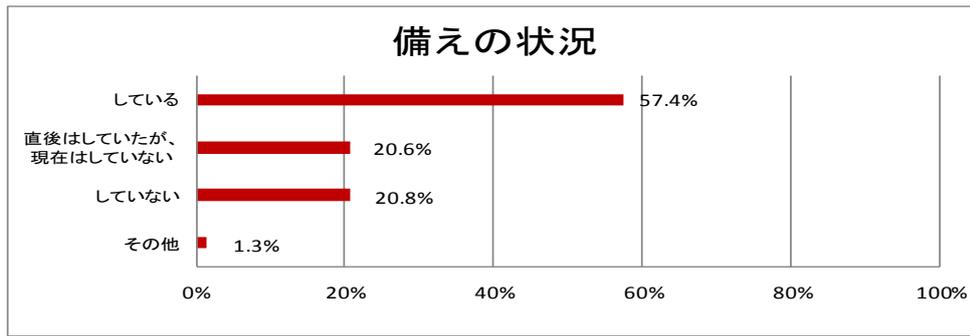
二度のアンケート調査に多くの方々にご協力をいただき、本当にありがとうございました。今回の集計結果も防災、減災に関する内容で、個人等を特定できるようなもの以外はすべて掲載させていただきました。また、アンケートの実施方法に対するご指摘につきましては、今後の活動の参考とさせていただきます。

なお、第一次及び第二次アンケートを基に取りまとめた集約結果は、今年10月に佐賀市で開催される第35回地方自治研究全国集会への報告レポートとして提出させていただきました。

○備えに対する状況の変化

I 第一次アンケートの結果（2013年実施）

災害に対する備え（Q震災後、災害に備えて、何か準備していますか？）



II 1年経過後の変化

アンケート対象者に若干の変わりがありました。回答率は約67%、全体の3分の2から回答を得ることができ、自由記載である感想、意見についても多くの方から回答が寄せられました。

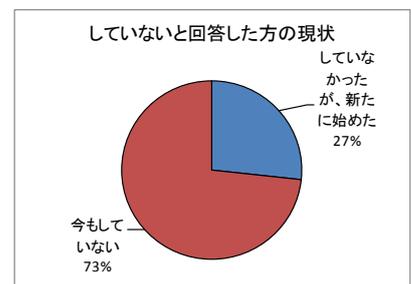
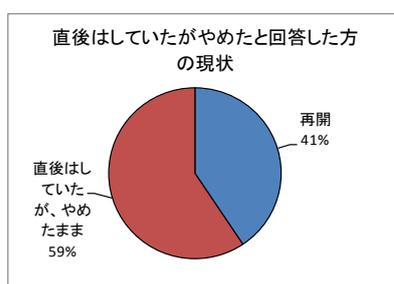
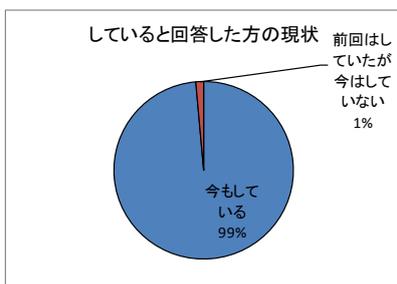
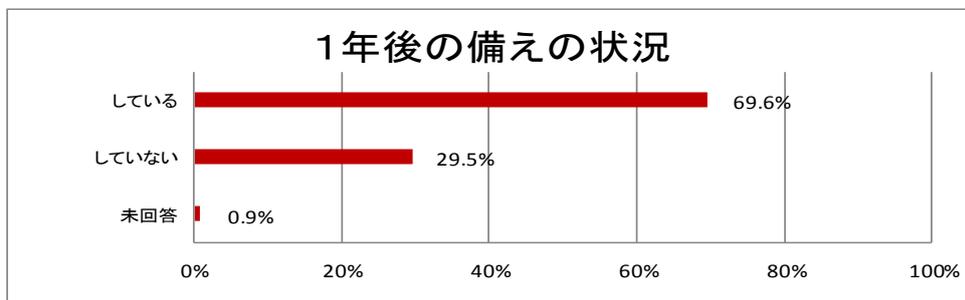
- ①実施期間
 第1期 2014年2月25日～3月14日(在職者)
 第2期 2014年4月22日～5月7日(退職者)

②回答数(回答率)

	総数	市役所 関係職員	水道職員	消防職員	退職者会 会員
配布数	1,039	615	50	120	254
回答数	695	517			178
回答率	66.89%	65.86%			71.20%

③第一次アンケートから1年後の備えに対する状況の変化

前年の調査で備えをしていると回答した方は、ほぼすべて(98.6%)が現在もしているという回答でした。また、震災直後はしていたが、現在はしていないという方については約41%、元々していなかったという方についても約27%が現在は備えを再開、もしくは新たに始めたという結果となりました。全体では現時点で約70%が災害に対し、何らかの備えをしているという結果となり、前回の調査時より「備えをしている」という回答が12%増加しました。



④防災、減災に対する意見、提案及び報告集を読んだ感想や思い

毎年、同じ人が防災担当になっている職場のあることが気になる。その職場に一人しか職員がいないのならまだわかるが、他にも職員がいるならば、毎年交替することにより、全員が防災について理解できるようになるのではないか。はっきり言って、担当以外は他人事。災害が起こったその時になって困るのは目に見えている。
報告集は労力のかかった素晴らしい物と思う。銚子市は津波の被害が十分に考えられる中、自宅等で被災した場合、津波警報等が出た際に職員として行かなければならないことはわかっているが、市役所に参集できるか不安。また、避難所の運営はその地域の市職員 OB の活用も検討したらと思う。
報告集の作成たいへんだったと思う。組合活動の中でこのようなことをしてくれたことに感謝するが、本来ならば行政がすべきことではないか。 自分の生活ではそれなりの災害に対する備えはできるが、銚子市役所は心配。再びあのような災害があった場合、建物だけでなく、職員数が大幅に減少(特に正規職員数)する中で対応は大丈夫なのだろうか
地震を含め、富士山噴火等の際には停電が予想される。水道も停止することから飲料水の確保が重要。その対策として井戸水の活用が考えられる。各町内、または学校、避難所に手押しポンプ式の井戸があれば、当座、生活に必要な水は確保できる。ただし、井戸は日常的に使っている必要があり、学校などで掃除用の水として使う方法もある
停電に備え、石油ストーブを購入
「している」とは言ったものの、すべてが足りるかといえばそうではないので、少しずつ見直していきたい
もうすぐ3年が経過しようとしているが、日々の生活に追われて、当時の記憶も少しずつ薄れてきているのが現状。あれだけの大惨事がある、たった3年しか経っていないのに…。あの時の教訓は本当に活かされているのだろうか。市役所でも防災訓練等を行うべき。また、何かが起きてからでは遅すぎる。
皆の真剣な思いが書かれ、集約されて本当に良かった。お疲れ様でした。ただ、その声が市の防災体制に活かされず残念に思う。忘れてはいけないと思いつつも、日々に追われ、忘れていく自分も戒めたいと思っている。
建設的な意見が多く、自治体職員としての自覚を感じられた一方で、指示がないから何もできなかったとか自分から何をすべきか考えることもせず、組織の不備や指示命令系統の批判の意見、感想ばかりが目につき、非常に不快に思った。まだまだ職員が自治体職員として何をすべきかわかっていないと感じた。
どんなに準備していても場所、時間、災害度はまちまちで、～している時はこうする、～の時はどう動く等、具体的に対象方法を整理し、すぐ実行できるよう、心構えをしておく必要がある。
このアンケートを記入してみて恥ずかしいと思った。再度、自分の周りを見直して、やれることを考え直そうと思う。
報告集は震災を忘れないために、市職労としてたいへん意義のある活動だと思う。
報告集はたいへん参考になった。自分の家族と避難経路の確認を行うようにしている。
震災後、3年が経過して、かつての記憶があいまいになっている。情報発信だけではなく、訓練等で身体に覚えこませることが必要と思う。
忘れてしまうので、防災訓練は必要と感じている。
震災時における公務員としての対応や心構えについて、日頃から各職場でディスカッションが必要と感じている。
被災地の現状について知る機会が定期的にあると、いつまでも忘れず、思いやりをもって過ごすことができるのではないか。
保育所勤務だが、施設自体の耐震整備を促進してほしい。また、0、1歳児クラスは自らの力で避難することは難しいので、保育士のまとまりも必要だが、避難車の台数も増やしてほしい。保育士が急いで避難させられる限度は2～3名(一人背負って、両手で一人ずつ手を握る)。より迅速に行動できるよう、ハード面の整備をしてほしい。
防災に対する意識が薄れていることを反省した。何か持続するために、こういったアンケート等が必要だと思った。
職員はそれぞれいろいろなことを考えているのだなと感じた。でも、それをとりまとめ、今後に活かすというところまでとはいっていないような気がする。再び、同じように災害が起きた時、現在の体制では十分な対応が取れるとは到底考えられない。
行政としての対策が進んでいない。学校等、避難所のカギをその地域に住む職員が持つなど、具体的な対策を行うべき。東日本大震災の際は学校の先生方がいなければ、対応できなかったと思う。あの時の教訓を活かすことができなければ、自治体のある意味がなくなってしまうのではないか。

<p>報告集の意見等を読むと「なるほど」と思うが、いざという時にこれらを参考にし、行動がとれるか不安を感じる</p>
<p>報告集のページの多さに驚いた。お疲れ様でした。 人間は自然には立ち向かうことができないと改めて実感した。これからも何か起こった時に自分の命を守る、人々の命を守る—危険の回避—を頭の中に叩き込んで生活していきたい。</p>
<p>前回のアンケートの実施及び報告書を目にした時は、備えや心構えがあったが、現在はこの気持ちが薄れていることに気付いた。忘れることはないが、記憶が薄れていくことが自分でも心配になる。</p>
<p>巨大地震等の発生が予測される中で、地域防災体制の確立が喫緊の課題となっている。地域のマクロ的な立場として、各家庭での被害の発生を想定したうえで、被害を低減させる減災意義の普及がさらに大切である。</p>
<p>市職員としての大災害発生時の対応について、定期的に研修を実施すべき。</p>
<p>合同防災訓練なども実施されているが、会場に近い町内が参加するだけでマンネリ化の傾向がみられる。銚子市独自の訓練を実施してはどうか？「自助・共助」で「避難、炊事」救援が来るまで生き延びられる。</p>
<p>ライフラインが止まった場合の役所、学校、各避難所間で連絡が取れるようなトランシーバー等の整備も必要。</p>
<p>多くの職員の考えが総括され、今後活かされることを望む。防災体制の確立、市民サービスの向上、官民一体の減災教育、業務継続計画の施行。</p>
<p>いつでも災害に備え、食糧や水等の確保をしておくべき。</p>
<p>自助、共助の推進が必要。</p>
<p>大雪の時など、銚子から旭までの交通網の確保が課題。</p>
<p>地震、風水害等に対して、常に備えておくことが大切。</p>
<p>近隣市町村では長時間停電となり、水道も出なくなり、手動ポンプの井戸が災害時に有効だった。ライフラインの確保で、食料、飲料水が重要であることが再認識されたため、井戸水(手動式)を少しでも整備すべきではないか。</p>
<p>地震発生に際し、人的被害が発生した場合は、行政に頼らず、日頃から隣近所同士の協力連携が図られるような人間関係を大切にしたい。 津波発生時には、家族、隣近所間での協力、助け合い精神による避難が基本であるが、最終的には自分の命は自分で守るという「津波でんでんこ」になると考えている。(日頃から家族で避難場所、避難路の確認をしている)</p>
<p>定期的に家族で避難について話し合っている。また、地域で災害弱者の避難等についての話し合いも行っている。</p>
<p>なるようにしかならない！風の吹くまま。</p>
<p>各個人が危機感を持つことが大事。</p>
<p>災害に備えて、改めて準備をしたいと思う。</p>
<p>職場の防災対策がまったく進んでいない。</p>
<p>アルファ米等の配布をしてほしい。</p>
<p>報告書作成お疲れ様でした。防災、減災に関わらず、今後は市民ひとり一人ができることをやってもらうための提案などが重要になる。自治体職員にできることも、職員の数も限りがあるので、まずは職員が実践していくことが必要。</p>
<p>誰もが危機意識が低すぎる。</p>
<p>震災時の記憶や危機意識が薄れつつあることを実感した。震災時の記録をまとめ、将来に残すことが重要。</p>
<p>職員が思ったこと、考えたことが赤裸々に語られており、とても感動した。「何とかしなくてはいけない」と思ったその気持ちをまとめて、次の対策に活かしていくことが重要。危機管理室のリーダーシップに期待。</p>
<p>素晴らしい報告集ができたと思う。ご苦労様でした。その後については、職員はもちろん市民にも広く、ていねいな防災、避難に関する啓発も必要と思う。</p>
<p>震災を忘れないためにも職員全体で防災訓練を実施すべき。人員不足で通常の職務もたいへんと思うが、他市より誇れるものを作り上げるためにも、担当課や一部の職員が参加しての訓練でなく、職員全体で実施するような計画をたててほしい。最初から大規模な訓練でなくてもいいので、年1回でも継続すべき。</p>
<p>庁舎が耐震基準を満たさないままで、もし、また大きな地震があった場合、救援活動の拠点となる役所も職員も失うことになるのでは。早急に分庁などの方法をとるべきではないか。</p>
<p>防災、減災は人の意識だけでも大きく変わってくると思う。今後、この体験を忘れないようにする取り組みが必要。いつ来るかわからないことへの準備は、とても難しいことだが、自治体としては常に考えておくことが大事だと思う。</p>
<p>広域での震災対応が必要。</p>

<p>自分では(準備を)していないが、家族が1週間分の食料や防災ラジオをそろえている。災害は忘れた頃(油断した時)にやってくると思うので、次の災害は”自分”“はいないかも。100年後に残る災害時の写真、記録データの保管と広域な防災センターの建設に取り組んでほしい。</p>
<p>報告集を見て、準備は大切だと思い、新たにラジオなどの備えをするようになった。</p>
<p>災害に備え、すぐに対応できるように避難用具などを用意し、家族とも話し合っ、避難経路等を確認しておきたいと思った。</p>
<p>震災はまだ終わっていない。これから関東直下型、東南海、千葉県東方沖地震が必ず来る。また、いつどこで起こるかわからないもの、そのための準備、対策が必要。自分の命、家族の命、友の命を守るため、後悔しないためにも家族で話し合っておくのも大事だと思う。</p>
<p>先日の大雪での被害等を知り、自分たち、また銚子市にも被害を受ける時があるのではと思う。そんな状況になっても困らないよう、対応策も念頭に置いておく重要さをさらに感じた。</p>
<p>報告集で得られた貴重な意見等が、今後の防災対策に活かされればいいと思う。</p>
<p>アンケートのおかげで、備えの再確認及び補充をしようと思った。ありがとう。</p>
<p>自分と同じような思い、自分とは違った思い、色々なものを見ることができ。とても良かった。ぜひ、役所以外にも見ていただく機会を多くしてほしい。</p>
<p>時間の経過とともに恐怖心は薄れ、心のどこかにあれだけ大きいもの(災害)は、また数年のうちに銚子には来ないだろうという根拠のない安堵感のようなものがあり、災害に備えるということが疎かになっている”今“を改めて反省する機会になった。</p>
<p>防災無線はなかなか聞き取れないので、防災用ラジオは全世帯が持つようにした方がいいと思う。</p>
<p>銚子市も一時断水があったものの、それほど大きな影響はなかった。もし、今後、大規模な断水があった場合、トイレ等の水の確保(特に学校以外の避難所)、暖房用の燃料確保(灯油が確保できない場合や停電時を想定したもの)、調理室(学校)の避難所担当職員への開放など、避難者への負担が少しでもなくなるよう備えてほしい。</p>
<p>二度とあのような震災は起きてほしくない願っている。</p>
<p>陸前高田市派遣職員の話聞いたが、被災当日からの状況は本当に想像し得ないものが起こったのだと感じた。そういった場合、現行の時間外手当割増率でよいのかという疑問がある。</p>
<p>このような形でアンケートを実施すること自体が、記憶の風化に抗し、意識を持ち続けるための実践になっていると思う。</p>
<p>災害に備えて準備している食料や水も、まず命が助からなければ必要でなくなってしまう。個人的には地震＝津波＝避難と思っているが、職員の立場では地震直後にどうしたらいいものか？いまだに明確になっていない感がある。</p>
<p>防災ラジオは購入したが、防災無線が聞き取りにくい。地震等が起きた場合は送信の音量レベルを上げてほしい。</p>
<p>近い将来、あれだけの規模の地震が銚子近辺で起きたら、果たしてマニュアルどおりに動けるか不安。昼ではなく夜中だったら、家族を放りだして市民のために働けるか？市役所近辺に住む職員は何とか市役所に来て、市外や遠距離の職員は担当場所にたどりつけるだろうか？想像以上のパニックになるに違いないので、何通りかのマニュアルが必要になる。昼の場合、夜の場合、大津波の場合等々。いずれにしても市役所が指揮監督し、最小限の被害におさめたいものである。市内の企業とも連携して、避難所等その他ボランティアチームの一員として協力してもらえたら、多少なりとも心強いのでは。</p>
<p>あれから3年経ったが、被災地では今も家族や友人が行方不明の方がたくさんいたり、海岸近くには瓦礫が残っていたり…。そんなニュースを見て、アンケートの皆さんの回答なども思い出し、自分が体験(体感)したことも思い出して、何とも言えない気持ちになった。忙しい毎日だが、何気ない日常でも”生きる”って本当に幸せなんだと改めて感じた。いろいろなこと、問題もたくさんあるが、少しずつ復興に向かっていけたら良いと思う。私も少しでもチカラになればと思った。</p>
<p>皆さんの体験談や感想、意見はどれも参考になった。震災は起きてほしくはないが、家族のためにも備えをしなくては今回のアンケートを書きながら反省した。</p>
<p>被災者という立場でのアンケートは、どこの自治体でもやっていたと思うが、職員の立場から見た震災に関するアンケートはとても画期的だったと思う。</p>
<p>いざという時に動けるようにしておかないといけないと改めて思った。備えはきちんとして、物品を整えておこうと思う。</p>
<p>報告集の作成、本当にお疲れ様でした。たいへんな労力がかかったかと思う。大震災を体験した方々の思いやその後についても知ることができ良かった。</p>

<p>組合でも毛布等、予備を職員用に用意してほしい。(仕事するにも備蓄が必要)年数をかけて用意してほしい。住民に対しても組合で用意した物は自由に使えるし、準備は必要。古くなれば、必要な方に寄付してもいいのでは。</p>
<p>普段から防災、減災に対して、個人として何ができるか、何をすべきか。また、自治体職員として何をすべきかなど、研修会などを開催し、意見を広く「交換できる場」を作ってほしい。</p>
<p>どこでいつ大きな震災が起こるかわからないが、動員の要請がかかった時、自分の家族はどうなっていくのか…。仕事と家族、どのように対応していったらよいか不安は大きい。いざという時、課の職員がどのように動けばよいか、具体的に課内で話し合っておいた方がよいのではないかなと思う。</p>
<p>災害に備えての準備をしなくてはとの思いはあるものの、実行に至らず…。震災も風化させないように、できることをしたいと思う。</p>
<p>1回目のアンケートでもしていないと回答したが、結局のところ、「しよう！」という思いはあるが、実際はしていないのが現状。きっと他にもそういう人は多いと思う。こういった活動を定期的に行ってほしい。</p>
<p>職員であっても、指示を待たず、まず逃げる。</p>
<p>今回のアンケートは忘れかけていたことを思い出すいいきっかけになったと思う。しかし、その後、これといった訓練等は行われていないので、今後は意識付けだけでなく、身体に覚えさせるため、年1回程度の訓練等をしていかないと、またこの経験したことが忘れ去られていくのではと思う。</p>
<p>保育園に2人の幼児を預けて勤務(共働き)しているが、3年前のように勤務中に災害にあい、親は災害対策本部に従事し、一方、子どもたちは保育園にいるものの、大丈夫かどうか不安、心配でならない。ましてや親が共に市職員の場合、どう子どもたちに対応していいか…。園から迎えの要請があったとしても、災害対応に追われ、どうすればいいのか…。</p>
<p>震災後に何ができるか、どう対応できるかが問題。津波が来て、火災が起き、すべて流され、焼かれたら備蓄も何もない。想定外のことを考え、命をどう守るかが課題であると大震災から学ぶべきである。備蓄が当てになるような災害なら何とでもなる。</p>
<p>防災ラジオの受信感度が悪く困っている(西部地区)。</p>
<p>自分の家族を犠牲にして、人(市民等)を助けられるか…自問自答。自分の家族の安否がわからずして、職務遂行はやっぱり難しい。</p>
<p>津波の写真を撮ったり、見に行っている人々の危機意識の危うさ。銚子市は防災訓練を行わないのか？追跡調査はとても大切なこと。薄れゆく危機意識を高めるものである。</p>
<p>68ページにも及ぶ報告集、たいへんだったと思う。退職者にまで配布いただき、ありがとうございました。津波のカラー写真を載せたのがよかった。津波に備え、避難するためのリュックサックを用意している。災害時、現職はたいへんだと思うが、よろしく願いいたします。</p>
<p>「語り継ぐために」の冊子を大切に保管し、友人に紹介したり、自慢している。市職労のご努力に敬意を表します。</p>
<p>持ち出し物の準備はしていないが、避難(集合)場所(高台)だけは決めている。</p>
<p>まだ3年だというのに、もう備え等に関心が薄れている自分がある。ただ、「いざ」という時にあわてないためには、日頃の学習と意識を繰り返し行うことだということが、NHKテレビの番組(「あの日わたしは」)を見て感じた。あの映像を見るだけでも多くのことを学べるので、DVD化した物を手にしたいと思っている。市役所の資料として残すことはされていますか？</p>
<p>自分が考えていることが、いざ地震が起きたら、どのように行動できるかわからない。</p>
<p>自然の猛威の前では、人はあまりに弱く頼りないものではあるが、家族、隣近所とのコミュニケーション、地道な訓練、物資の備蓄、都市計画、本当に実行できる防災計画等々、予想(予測)のつかないものへの投資(金銭的にも精神面でも)は決してムダではないはず。いつ何が起こるかわからないのだから、行政にもしっかり対応してほしいし、各々個人、家庭でも自覚したい。</p>
<p>報告集に挿入された写真を見て、たいへん驚いた。あらためて震災の怖さを感じた。</p>
<p>震災後に行われた訓練は何だろうと、「訓練を実施した」という形だけのものとしか見えなかった。3年前のあの教訓は「海、川から遠くへ、高い所へ」だったはず。私の家は高台にあるのに、家より低い場所にある小学校(川のそば)へ避難することなどできない。今後は「実のある訓練」を望む。</p>
<p>たいへん参考になった。とても良い取り組みだと思う。</p>
<p>震災時に持ち出す必需品の保管場所の確認を常にしている。自分の家(旭市)が被災地のそばであったため、避難先への経路と家族間の連絡方法等を確認し合っている。</p>
<p>時間の経過とともに忘れてくるので、定期的な取り組みが必要と思う。</p>
<p>食料、水等、市から町内会を通じて、多少でも各家庭に配布されればと思う。</p>

報告集を読んで、大震災の時の恐怖感、自分ほどのような行動をとったのか、またどのような思いで過ごしたのか、いろいろな体験感を忘れないよう、これからの日々や出来事に関心をもっていきたく感じた。
気象庁の発表する予報を確認することが必要。
震災直後は不安だったのが、時間が経過するにつれて安心してしまふようなところもあるので、常に危機感をもって水や避難用具等の備えをしておきたいと思っている。
各町内に防災情報員(仮称)を置き、町内ごとに被災状況等を市に報告してもらふようなシステムを作ったらどうかと思う。
素晴らしい報告集でした。事細やかに作成され、写真での銚子の震災の様子など、報告集を見なければわからない生々しい実態がよく理解できた。作成に携わった係員の皆さん、たいへんでした。この資料は、これからの銚子にとってとても大切なものです。
これからのいろいろな面で参考にしたいと思う。本当にありがとうございました。
アンケート報告集は様々な意見が寄せられており、今後の防災対策の参考になると思う。防災、減災には町内会単位など地域での取り組みが重要。そのためにも日頃から隣近所との交流が不可欠。
たいへん参考になった。震災時は西新宿の高層ビルの6階にいたが、ヘルメットが支給され、事の重大さを自覚した。外へ出ても老朽化したビルも倒壊しておらず、日本の建物は「すごい」と思ったが、銚子も被害にあったことは後で知った。
誰もが混乱と不安の中で過ごしたことがわかった。三方を水で囲まれた銚子で、津波の被害が比較的少なかったことは不幸中の幸いだった。恐ろしい津波に対する備えが何よりも大切だと思う。
市職員は市民であると同時に、防災対策を推進する役割と責任を負っている。今回のアンケートは、そのような職員の生の声を集めたということで、とても貴重だったと思う。どちらの立場も軽んずることなく、迷いながらも市の防災を考えていってほしい。
職場によって「上司がいなくて指示がなかったが、同僚と連携し素早く対応した」等の報告があり、感動した。いろいろな場面を想定した訓練(住民を含めて)を、何度となく実施する必要性を強く感じた。
震災時に役立つ便利グッズ等の紹介をしてほしい。また、被災地への支援旅行(行動)等も実施できればと思う。
「記憶は薄れていくもの」を感じている。今一度、このアンケートを記しながら災害への備えを再考している。
自分が心配される年齢に達してきているが、近所の高齢者たちで声掛けあっていきたいと話合っている。
現職の方々が日頃の訓練が必要と考えていることに対し、何らか実施していくべきと痛切に感じた。
1年に1度ぐらいは防災訓練などを市全体でできればと思う。
災害は忘れた頃に発生すると思うので、常に家庭内でのコミュニケーションをとるよう心掛けている。
震災直後に準備したままなので、見直さなければと思っている。
依然として「なるようにしかならない」と楽天的な考えで特別な備えはしていないが、アンケート等で何度も考える機会を与えられたり、TV等で備えをしていない人は、人にすべてを頼っているからだとの意見を聞き、最低限の備えは必要だと感じ、行動に移したいと思っている。
絶対的な安全が確保されない限り、原発は廃止すべき。
再度の地震による原発事故が心配。市は放射能物質への対策を考えているのだろうか。3・11では放射能物質の食料等への影響がたいへん危惧された。もう世間ではそのことは忘れ去られているようであるが、地震はまた発生する。対策はあるのだろうか。
震災直後の混乱や計画停電が続いていた時期から月日が経過していく中で、自分の意識も薄らいでいると感じている。でも地震に限らず、ゲリラ豪雨、台風による被害であったり、竜巻、大雪による被害も毎年各地で発生していることから、やはり常に自分ができることを意識し、生活していくようにと考えている。アンケート結果の集大成「語り継ぐために」は家族間でも「どうしてこう」というひとり一人の考えに一石を投じてくれた。
たいへん手間のかかる集計作業をよくこなしたと感心している。
津波対策のPRしてますか？避難経路はどうなっているのでしょうか。
アンケートの集計、本当にたいへんでした。職務の外にこのような報告集を作成していただき、感謝にたえません。本当にご苦労様でした。
ラジオはいつも聞くようにしている。
震災後3年が過ぎ、忘れがちになっている。大きな地震が来たら怖いいつも思っている。
何でもない、ごくごく普通の生活が有難いことと今は思っている。たいへんな作業に対する熱意に感謝。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。